

【テーマ7】 団体名 横浜国立大学

「教科横断的なプログラミング的思考を育成するための教職カリキュラムの調査と開発調査研究主題」

調査の概要

◆課題認識

- ・小学校プログラミング教育への不安
- ・教員養成カリキュラムが未定

◆調査研究の目的

- ・プログラミング教育カリキュラムの全国調査
- ・実践事例からカリキュラムの提案

◆調査研究の方法

- ・Web調査および事例研究

◆調査研究校

- ・附属鎌倉小学校
- ・横浜市立小学校6校、中学校2校

◆現状

- ・教員養成系大学44大学（令和1年現在）
- ・上記に対応する教育委員会43か所（令和1年現在）

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

①ポイントA

- ・教員養成系大学では、33大学が開講
- ・教育委員会では、37か所が開講
- ・上記の共通開講29 連携率（70%）

②ポイントB

- ・実践事例は、小学校の国語、社会、算数、理科および中学校技術科を調査
- ・各教科の特徴を明らかにした

◆成果

- ・平成30年度は、これまで小学校プログラミング教育に対応した教員養成系大学でのカリキュラムが少ないことが課題となっていたが、令和1年では講義数の増加がみられた。さらに各教育委員会との連携において、対応する講座は約70%となっていた。
- ・教科横断的な小学校の実践は今後増えると予想されるが、各教科の中でプログラミング教育を行うことで、成果の得られた実践の収集ができた。

表：小学校プログラミング教育に対応した講座の数の関係

		教育委員会	
		研修有り	研修無し
国立大学	講義有り	29	4
	講義無し	8	0

今後の課題

◆「教員養成と教員研修の内容の連携」の支援

- ・教員養成系大学のカリキュラム内容の精査と、教員研修の内容の連携を調査し、養成と研修の一体化の支援が必要である。
- ・さらに、教科内容の共通性やプログラミング的思考の育成についても事例研究を継続する。

※ 上記項目については一例であり、適宜変更してかまわない。

※ 別紙イ-②については、文部科学省において公表する。